



『一步一步進もう』

~Let's Move Forward Step by Step~  
東京六本木ロータリークラブ会長

# TOKYO ROPPONGI ROTARY CLUB

## WEEKLY REPORT

東京六本木ロータリークラブ



『ロータリーは分かちあいの心』

～Rotary Shares～  
国際ロータリークラブ会長

発行日 2007年9月3日

No. 8

平成19年8月6日

卓話 『江戸城再建を目指して』

小竹 直隆 様

今日はこういう席でお話をさせていただくことを大変嬉しく思っております。「江戸城再建を目指して 魅力ある国のシンボルとして」というのが私のテーマでございます。都市・東京を世界に売り出す、国際会議と観光客を東京に誘致したいという仕事を5年間やらせていただきましたが、結論を言うと東京は魅力ある都市とは見られていないという強烈な印象でした。それが私が江戸城再建を思い立った一つの原点でもあります。日本は経済大国にはなりましたけれども、次に何を目指すのかが見えていない。いくつかの道があると思いますが、私はあえて観光大国を目指すことをアピールしたい。

もう一つは、日本はモノの豊かさを享受する反面、心の豊かさを失くし伝統と文化を脇に追いやってしまった。伝統と文化の再生こそが今の日本の大いなテーマなのではないでしょうか。日本では勤勉は美德という風潮が長く、観光は必ずしもいいイメージでは考えられていない。しかし世界では時代の最先端の最も格好いい仕事が観光です。観光は広大な経済波及効果があります。観光産業がGDPに占める割合は世界では10%強、日本ではわずか2.4%。いかに日本がこの分野で立ち遅れているかということです。夢と希望、自信と誇りを見失ってしまった日本。なぜ日本人は日本を愛せないのか。カール・ウォルフレンが、それは歴史を忘れたからだと言っています。「文明の衝突」という名著を書いたサミュエル・ハンチントンは、世界8大文明、文化圏の中で、たった一つの国で一つの文明、文化を持つ唯一の国が日本だと言っています。20世紀前半は武力、後半は金力、21世紀は魅力の時代だと言われています。観光と伝統、文化こそが時代の最先端に立つ、その一つなのではないか。それが私のメッセージです。

今、何故江戸城再建か。一つには観光立国を目指す日本の国民的なシンボルにしたい。二つ目は世界に類を見ない日本の伝統と文化を再評価して再生日本のシンボルにしたい。三番目は国際、国内交流の一大拠点にしたいということです。皇居の東御苑に残された台座の上に幻の天守閣を再建したい。350年前、明暦の大火で江戸城は焼失してしまいました。天守閣を直ちに再建しようと前田候が台座作りを買って出ましたが、それだけの大火の後だけに、時期ではないとして建てられませんでした。その台座の上に60mに及ぶ五層の天守閣を建てたい。大阪城をはるかに上回る天下一の巨城になるはずです。

3年前、私は江戸城再建を目指す会を立ち上げました。昨年3月にはNPO法人の認証をいただき、現在は会員685名です。草の根で国民の声として広げたいのでマスコミには一度も売り込んでおりませんが、NPO設立以降、マスコミにも注目されています。設計図が残されておりから、こういう城を建てたいということを来年春には発表したいと思っております。これまで専用の事務所も持たないでやってまいりましたが、なんとか事務所を確保し、ホームページも立ち上げます。太田道灌公追慕の碑が平河門の前にございますが、9月10日にはこの碑を洗いなおして除幕式をやらせていただくことになっております。これからは広く深く草の根運動を広げて築城プランの具体化で国民運動に広げ、そして江戸城再建に繋げたいということです。

Join us to make a dream come true. ありがとうございました。

